

国語科 学習指導案

授業者
指導教諭

- 1. 日時 2025年10月27日(月)第5時限
- 2. 場所 教室
- 3. 学年・組 (35名)
- 4. 単元名 「ヒューマノイド」伊坂幸太郎(光村図書)
- 5. 単元の目標

- 文章の構成や場面の展開について、理解することができる。【知識・技能】
- 過去と現在、伏線と結末の関係を読み解き、登場人物の言動の意味を考察することができる。【思考・判断・表現】
- 物語について自分なりの解釈をもち、伝え合おうとする。【学びに向かう力・人間性等】

6. 教材観

本教材は、伊坂幸太郎氏による書き下ろしの物語である。過去と現在の時間が交差しながら展開し、それらが伏線によって緊密につながっているところに特徴がある。内容はやや長い、中学生の学校生活と友人関係という物語の設定には親しみを感じやすく、嫌悪を感じる生徒は少ないと予想される。本教材では、段落ごとに時間軸と出来事を整理しつつ、登場人物の心理と言動に着目し、自らの解釈を深める活動を行いたい。

7. 生徒観

本学級の生徒は、積極的に授業を聞く姿勢ができて多くの者が多い。また、ペアワーク・グループワークに関しても、抵抗なく、即座に反応できる姿が見られる。自由に発言できる雰囲気を作られている一方、自分の解釈・考えをもち、共有することを苦手とする生徒も少なくない。そのため、本教材では、物語における読みの多様性を実感し、他者に自分の意見をよりよく伝えることができるよう指導する。

8. 指導観

本単元では、内容を理解することはもちろん、生徒自らが整理して自分なりの解釈を持つことをねらいとしている。そのため、以下のような指導を行う。

はじめに本文を意味段落ごとに句切って読み、その一つ一つの時間軸と出来事を大まかに把握する。次に、本文内容を詳細に解説しながら読解を進める。これらを行う際、グループ・ペアワークで頻りに話し合いを行い、相互理解を深めるよう促す。また、使われている比喩や登場人物の表情描写から、それらが具体的に何を示しているのかを言語化することで、より精度の高い読みを実現する。物語が動く第五段落では、主人公が感じた「いら立ち」について、本文の記述と自らの体験を重ねた上でその理由を考え、班で協議し、一つの意見を作り上げる活動を行う。協議の際、他者の意見に質問をさせることで、班員全員の解釈がより深まることを期待する。最後に学級全員で出した意見を共有する。これらの過程を経て、物語には多様な解釈が可能であることを学ばせたい。

9. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話や文章の構成について理解している。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 登場人物の言動の意味等について考えることができる。	ペアワーク・グループワーク等に積極的に参加し、自分の意見を発言している。 自分なりの考えをもち、本文を見つめ直している。

10. 単元の指導と評価の計画(全4時間)

時	学習内容	主な評価規準【観点】・評価方法等
1	目標:物語を読み、全体の流れを把握する。 ・本文を黙読する。 ・プリントで時間軸と内容を確認する。 【第一段落の読解】	話や文章の構成について理解している。 【知識・技能】(プリント・ふり返しシート)
2	目標:タクジについて理解する。 【第二～四段落の読解】 ・自分の恥についてのエピソードとつなげて考える。	登場人物の言動の意味等について考察することができる。 【思考・判断・表現】(ふり返しシート・観察)
3 本時	目標:「僕」のいら立ちについて考える。 【第五段落の読解】 ・「僕」の「怒りにも似た、いら立ち」について、本文の情報と自らの経験からその理由を考える。 ・班で意見をまとめる。 ・全体で共有し、次回につなげる。	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ・登場人物の言動の意味などについて、自分の考えをもち、よりよく伝えている。 【思考・判断・表現】(プリント・ふり返しシート・観察)
4	目標:「僕」の心情について理解する。 ・前回まとめた意見を全体に共有する。 【第六～七段落の読解】 ・「僕」の最後の心情を読解する。	登場人物の言動の意味等について考察することができる。 【思考・判断・表現】(ふり返しシート・観察)

11. 本時の展開

- (1) 本時の目標
 - ・「僕」のいら立ちについて、自分なりの解釈をもち、伝えることができる。
- (2) 本時の評価規準
 - ・登場人物の言動の意味などについて、自分の考えをもち、よりよく伝えている。【思・判・表】
- (3) 本時の具体的な子どもの姿(判断の基準)

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する子どもへの支援(C)
「僕」のいら立ちについて自分なりの解釈をもち、根拠をもって他者に伝えている。	「僕」のいら立ちについて解釈をもち、他者に伝えようとしている。	「僕」のいら立ちの理由が書かれる場所を示し、班員の意見を聞いた上で、共感できる考えを自分の言葉で表現するよう促す。

